

## 第36回 寒地土木研究所講演会 Web 配信(収録版)

「AI研究の動向と最先端データ駆動型研究」

～次世代インフラ維持管理・防災・減災に向けた産学官・地域連携による取組～

ほか

ご視聴のみなさまへ



国立研究開発法人土木研究所寒地土木研究所  
所長 竹内 正信

寒地土木研究所講演会は、積雪寒冷地に関する土木技術の研究成果についてより多くの方々に紹介することを目的に毎年開催しており、今年で36回目を迎えました。

今年度は、11月10日に札幌市の「かでの2・7」において、新型コロナウイルス感染拡大防止に鑑みて、収容人数の約半数を定員としてご案内し、当日は約130名の方に参加していただき、講演会場に隣接するホールにおける研究・開発技術を紹介するパネル展示と併せて、無事に開催することができました。

しかしながら、コロナ感染に懸念を抱く方や、当日ご都合が付かなかった方、遠方である等の理由により会場にお越しいただけなかった方もいらっしゃると思います。そこでせっかくの講演を有効に活用すべく、今般、講演を録画・編集したものを配信することとしました。

今回の講演会の目玉の一つは外部講演者による講演です。

近年、インフラの老朽化や、気象災害の激甚化・頻発化、大規模地震の切迫等、様々な課題を抱える我が国において、国民の生命・財産を守り、社会の重要な機能を維持するために、AI技術の活用が期待されております。これらのことを踏まえ、今年度の外部講演者として、北海道大学大学院情報科学研究院 小川准教授から特別講演をいただきました。

小川様からは、AI研究の動向と次世代インフラ維持管理・防災・減災を目的とした最先端データ駆動型研究に関してご講演をいただきました。ご講演の中では、北海道大学において進められている産学官・地域連携の取り組みについても触れていただいております。

また、寒地土木研究所の研究、技術開発を広く知っていただくために、当研究所が取り組んでいる「中長期計画」およびその研究成果について、6名からご報告させていただきました。水害対策から、津波災害対策、波浪対策、暴風雪災害対策、冬期交通円滑化、交通事故対策、コンクリートや法面の維持管理技術、水産資源増殖技術、農業基盤整備技術、景観向上など、幅広い分野のお話させていただいています。いずれも、皆様にとってご参考になる話を提供できたものと思っています。

録画版のWeb配信を通じて、行政や建設関連企業等で活躍されている技術者の皆様の技術力向上や、土木技術の発展、建設事業の推進、効率化等に少しでもお役に立てることを祈念いたしまして Web 配信に際してのご挨拶とさせていただきます。